

国際博物館の日記念事業 「博物館の裏方探検」

奥村 みほ子

5月18日、国際博物館の日を記念し、当館では裏方探検を行いました。普段、公開していない博物館の裏方 - 荷解室、化石処理室、石工室、植物標本製作室、動物標本製作室、第一収蔵庫などを30分程かけてお客様を案内しました。この探検ツアーでは地質、植物、動物の様々なサンプルを記録し、標本として博物館に納められるまでの過程を紹介しました。この日は4回実施し、26名の参加がありました。



博物館に運び込まれたサンプルが化石の場合、化石処理室で母岩から取り出すクリーニング作業を行うことや、慎重に進めなくてはならない作業だけに時間がかかることを理解していただきました。

鉱物や岩石などが持ち込まれた場合は、石工室で研磨され、光学顕微鏡で種類を判定するためのプレパラートに処理されること、ボランティアの方々にも協力していただき、このような処理が進んでいくことを説明しました。ちょうど職員が研磨作業を行っており、見学することができました。

また、植物サンプルについては、腊用標本（押し葉）を作成する流れを説明しました。植物標本製作室で用いられる実体顕微鏡や種類を同定するための図鑑や地図、標本をつくる器具をお見せしました。

動物のサンプルについては、動物標本製作室で体長の測定や昆虫標本をつくるだけでなく、必要に応じて解剖したり、サンプルを残せる状態に処理することを説明しました。

収蔵庫の前にある大型冷凍庫の中には、標本になる前の動物の遺骸が保管されています。ツアーの中では、博物館屋上で発見した、鳥の足やモグラの頭などをご覧いただきました。全て何者かに捕食されたものです。意外と拒否されることもな



く、サンプルの収集には地道な作業が必要であること、サンプルからは色々な情報を得られること、記録を残す重要さをご理解いただけたようです。



収蔵庫では、標本の保管や留意点を説明しました。標本が採集だけでなく、寄贈されたものもあり、ラベルを付けることによりその履歴を追えるように保管していることなど、具体的な保管方法を説明しました。参加されたお客様からは、「初めて知った」、「よくわかった」という声が聞かれ、博物館の役割を理解していただくよい機会となりました。



(おくむら みほこ・学芸員)